

## 陳 情 文 書 表

(子ども若者はぐくみ局)

受 理 番 号	1 3 7 4	受 理 年 月 日	令和3年9月22日
件 名	行財政改革計画における保育園関係項目の見直しの撤回		
要 旨	<p>保育園職員が安心して働き続けられ、人材確保にもつながり、また子供たちのより良い保育環境のためにも京都市民間保育園等職員給与等運用事業補助金を維持していただきたい。今後、職員給与が下がれば保育園職員の人材確保が今以上に困難になり、また、現職員においても希望を持って働き続けることができずに離職率が上がると予測する。</p> <p>京都市営保育所が果たしてきた大きな役割は認知している。しかし、公営保育所の民営化が進み、保育利用の大半を民営保育所や認定こども園、その他の事業所で担っているということも事実である。</p> <p>京都の未来を作っていくのは今を生きる子供たちである。全ての子供たちが京都で豊かな保育・教育を受ける権利を平等に持っている。</p> <p>現行の配置基準が見直され、国基準になることを容認することは到底できない。全国トップレベルの豊かな保育環境のベースである京都市の手厚い職員配置基準、障害児加配、1歳児加配や保育士給与水準の継続を切に願ってやまない。</p> <p>また、現在の京都市の保育料は政令指定都市の中でも高額である。今以上の値上げになると、子育て世代の市外への流出がますます進む。既に近隣都市への流出が始まっている。名実共に子育て環境日本一を守ることは、京都市民を守り、減少が進む出生率に歯止めを掛けることにつながると思う。</p> <p>ついては、京都市において行われようとしている行財政改革計画における保育園関係項目の見直しを撤回することを願う。</p>		
陳 情 者	社会福祉法人きらら福祉会 一乗寺保育園園長 荒堀 育子		
回付委員会	教育福祉委員会		